

会 議 録

会議名 (審議会等名)		コンプライアンス推進委員会				
事務局 (担当課)		コンプライアンス推進課 電話042 - 707 - 7040 (直通)				
開催日時		平成29年6月19日(月) 15時00分～16時10分				
開催場所		相模原市役所 職員会館4階 会議室1				
出席者	委員	3人(別紙のとおり)				
	市	総務部長				
	事務局	3人(コンプライアンス推進課長、他2人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 職員意識調査について(案) 2 その他				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 職員意識調査について(案)

職員意識調査の案について事務局より説明を行い、その後意見交換を行った。

コンプライアンスを法令遵守としてのみ捉えておらず、広い意味でのコンプライアンスの状況を測る設問になっており、良い調査項目になっている。

表向きは調査という形を取っているが、質問に回答していく中でコンプライアンスに関する気付きを与えるような教育的な面もあると思う。アンケートとは別の冊子でコンプライアンス違反事例等を周知すると、より効果的なのではないか。

以前にコンプライアンスに関する意識調査をやっているということであったが、前回調査と同じ項目について質問し、意識がどのように変化したかを測るということも必要ではないか。

前回調査は4年前に実施しているが、今回の調査を軸として、隔年で同内容の調査を継続的に実施することで意識の変化を測り、コンプライアンス施策の効果を確認する取組にしたいと考えている。

個人の意識の部分で「やりがい」や「使命感」などをストレートに聞いている。普段はあまり口にしない言葉だが、あえてこのようなことを聞くことで、職員に対する教育的な効果もあると思う。是非継続的に調査を行っていただきたい。

質問8に「同僚とのフォローアップ」とあるが、同僚だけではなく部下に対するフォローアップができているかも確認した方が良いと思う。

アンケートを実施することで教育的な効果を得ることはよくある手である。例えば質問の17に回答することで、「こういう場合はコンプライアンス推進課に相談することが可能なんだ」という気付きを与えることができると思う。

同様に質問の17についてだが、コンプライアンス上の問題を察知した場合、一般企業だと本人や上司に言う以外に、労働組合や企業が通報窓口として設置した外部の弁護士等に相談する方法が取られている。

質問25の情報管理について、今の設問だと全般的にルールを守っているかを確認する形となっている。設問数を減らすためにはこのような聞き方もやむを得ないが、具体的事例を交えた聞き方をするのも効果的だと思う。

質問26の安全運転についても、このような聞き方だと、大半が「気をつけている」と回答すると思う。例えば、「通勤や仕事中の運転において、どれくらいの確率で事故に巻き込まれると思いますか」という聞き方をして、どの程度リスクを感じているかを測るというのも1つの方法である。

パソコンを使っただけの回答と紙による回答があるとのことだが、紙による回答はどの

程度を予想しているのか。

パソコンが1人1台設置されていない職場は紙による回答となるので、1千弱が紙による回答になると思う。

集計のことを考えると、回答欄をチェックボックスではなく ~ などにする方法や、それが難しければレイアウトを工夫して集計し易いようにしたほうが良い。

アンケートの表紙に目的を記載したほうが良い。

コンプライアンスからは少し離れてしまうかも知れないが、私生活上の悩みや問題などが仕事に影響し、不祥事に発展する可能性もある。そのような場合に相談する場所を示すような質問を入れるのも1つの案である。

コンプライアンスの土台は健康や家庭、経済状況などの安定にあると思う。今回の意識調査の質問項目にするのは難しいと思うが、機会を捉えて相談機関などの情報を発信することもいいのではないか。

今回いただいたご意見を参考に職員意識調査(案)を修正し、メールにて今一度ご確認いただいた上で調査を実施したい。

概ねこの項目で問題ないと思う。修正については委員長に一任したい。

2 その他

次回開催日程について調整し、次回は10月2日(月)に開催することとした。

なお、次回の委員会については、庁内のコンプライアンス推進のための組織であるコンプライアンス推進会議幹事会との合同開催について事務局より提案し、委員の了承を得た。

以上について、相違ないことを確認する。

平成29年 月 日

委員長 _____

署名委員 _____

コンプライアンス推進委員会委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	中田 亨	国立研究法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター 知識情報 研究チーム長	委員長	出席
2	石橋 忠文	弁護士	委員長代理	出席
3	増田 理恵子	税理士		出席